

軽井沢町版レッドデータブックの構成案

1 軽井沢町版レッドデータブック策定の目的

1.1 軽井沢町の特徴、レッドデータブック作成の背景

- 国立公園区域を含む（上信越高原国立公園、妙義荒船佐久高原国定公園）
- 浅間山麓は広く国有林になっており、火山活動の影響を受けた範囲が存在
- 高原性湿原・冷涼気候帯の生物相が特徴的
- 私有地（別荘地やリゾート施設等）の占める面積が広く、別荘地開発や観光利用との関係調整が課題
- 地域住民だけでなく観光客・別荘利用者・企業も重要なステークホルダー

1.2 策定の目的

軽井沢町版 RDB の策定にあたっては、大きく分けて「科学的な役割」、「行政的な役割」、「地域連携と普及啓発」の3つの目的があると考えられる。

(1) 科学的な役割（町内の動植物の現状把握）

- 町内の動植物の現状把握（基礎情報の整備・体系化）
- 絶滅のおそれのある動植物の選定と評価（減少要因の整理）
→初回としてのリストアップ 今後継続モニタリング
- 調査データの蓄積と更新体制の確立（継続性）も重要

(2) 行政的な役割（都市計画、開発にあたっての配慮など）

- 都市計画・環境影響評価・保護地域設定に活用できる基礎資料の整理
- 森林管理や観光利用計画、開発事業などの際の基礎資料
- 住民・事業者との保全対策の調整のための基礎資料
- 守るべき重要な環境や生物の抽出、対策の検討

(3) 地域連携と普及啓発（町民の生物に関する理解向上）

- 「守るべき環境や生物」を明確化し、地域住民の自然環境への理解を向上
- 私有地の管理者や地域住民と協力した自然共生サイト登録の足掛かり
- 住民、別荘利用者、観光客向けの普及ツールとしての活用
- 学校教育やネイチャーツーリズムでの活用

★本 体 ⇒ 行政・専門家向けの軽井沢の自然を保全するための“精度の高い根拠資料”

★概要版 ⇒ 子ども達や幅広いステークホルダー向けの“分かりやすい普及啓発資料”

2 軽井沢町版レッドデータブック（本体） 構成案

2.1 目次構成案

既存の他地域の構成（主に名古屋市、岐阜市、安曇野市など）も参考にした、軽井沢町版のレッドデータブック本体の目次構成案を以下に示す。

章	内容ポイント	備考
第1章 軽井沢町版 RDB とは (策定目的・評価基準・ 調査方法)	<ul style="list-style-type: none"> ・町版 RDB の概要説明 ・県・国リストとの対応、RDB 掲載種の選定要件、カテゴリ説明、RDB 策定に実施した調査の方法 	
第2章 軽井沢町の 自然環境の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・地形地質の成り立ち(浅間火山) ・高い標高、冷涼な気候、湿地環境 ・土地利用の特徴(別荘地が多い、観光地) ・自然環境の変遷 	<ul style="list-style-type: none"> ・レッドリスト種の減少要因に関わること ・環境保全の課題
第3章 軽井沢町に 生息・生育する動植物	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の動植物の概要、特徴 ・外来種の話も含めて紹介 ・全種目録は資料編、もしくは別冊？ 	
第4章 レッドリスト選定種	<ul style="list-style-type: none"> ・分類群ごとのレッドリスト選定種の説明 ・レッドリスト一覧、減少要因など 	
<ul style="list-style-type: none"> ・分類群ごとの概要説明 ・選定種の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物／動物、分類群ごとに選定種の説明 ※詳細は「2.2 分類群別の種解説(第4章)の構成案」(次頁)参照 	<ul style="list-style-type: none"> ・植生群落の取り扱いは検討中
第5章 重要な環境・景観および 重点地域	<ul style="list-style-type: none"> ・町内における重要な環境や場所を紹介(河川・池・草原・湿原・河畔林・農地・高標高帯など) ・環境ごとの指標種や植生など紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・植生群落の取り扱いは検討中 ・環境ごとの環境保全上の課題
資料編／索引	<ul style="list-style-type: none"> ・文献、策定に至る経緯、策定体制(委員、協力者、事務局)、 ・法制度対応 ・全種目録？ 	

2.2 分類群別の種解説（第4章）の構成案

(1) 対象分類群

■植物

- シダ植物
- 種子植物
- コケ植物／地衣／菌類／藻類 ※できる限り記載
- 植物群落（掲載場所や表現については継続検討中）
※第5章重要な環境・景観および重点地域にて記載する可能性有

■脊椎動物

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 淡水魚類

■無脊椎動物

- 昆虫類（甲虫／チョウ／トンボ／その他）
- その他無脊椎動物（クモ類、貝類 など） ※できる限り記載

(2) 分類群ごとの記載構成案

- 軽井沢町における概況（軽井沢町全体の生息・生育種の状況）
- 軽井沢町におけるレッドリスト掲載種の状況（絶滅危惧種の選定状況、種数など）

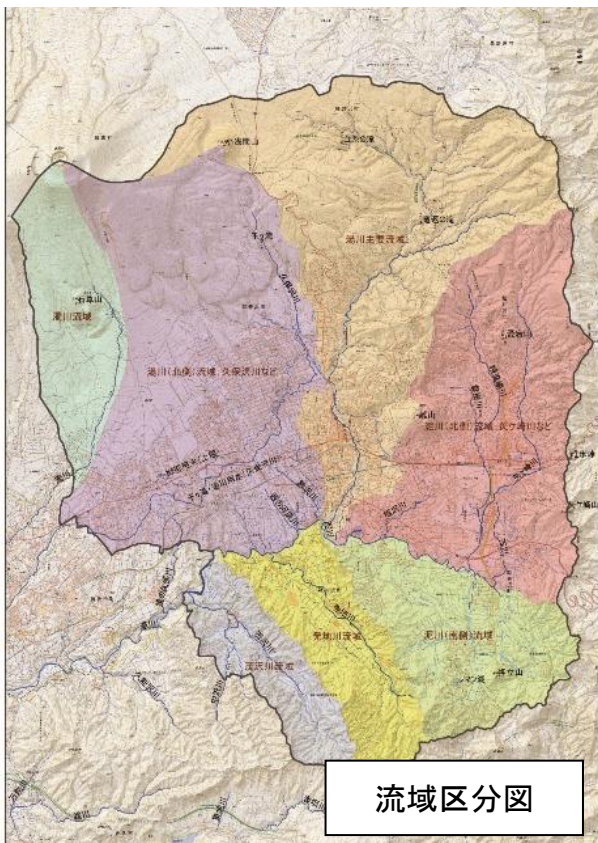
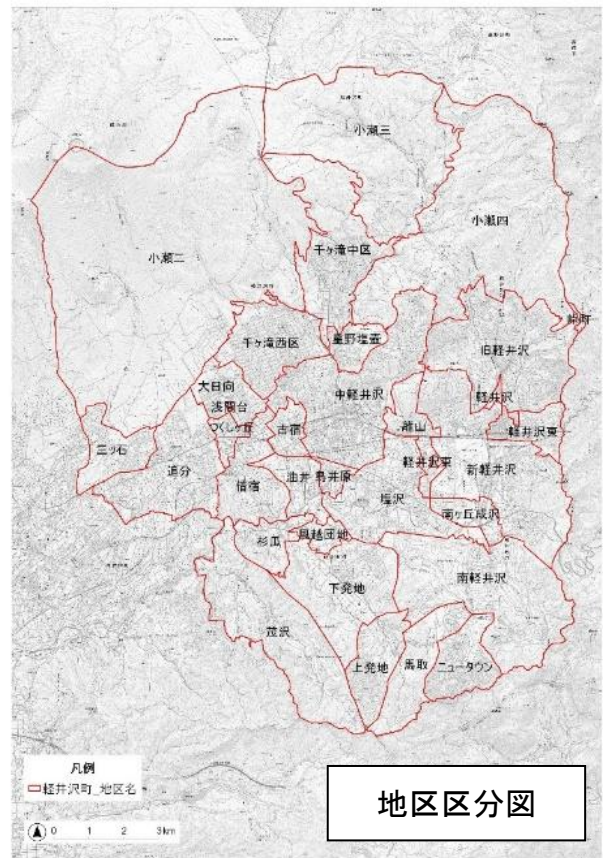
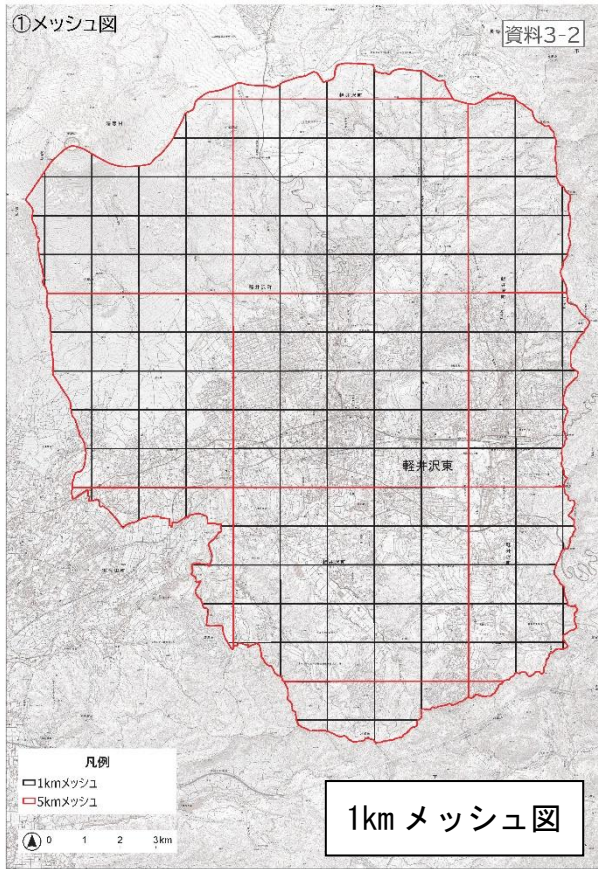
(3) レッドリスト掲載種の解説の構成案

掲載種について、カテゴリ、町内分布や生息・生育状況、減少要因など、具体的な保全上の留意点について記載する。

項目	内容
●種名、学名	・科名などをどのように表記するか要検討
●種の写真	・できる限り軽井沢町で撮影されたものを使用 ・撮影者の記載方法や著作権の調整も 要検討 ※全種について掲載とするかは要検討
●評価カテゴリ 法制度・指定状況	・軽井沢町のカテゴリのほか、環境省と長野県のカテゴリも記載 ・国内希少・鳥獣保護・文化財なども記載？
●種の特徴	・形態、識別ポイントなど ※あまり細かく書く必要はないか？
●生息・生育環境	・文章のほか、環境をカテゴリ分け（標高帯別：平野、山地、亜高山、高山、環境別：森林、河川、草原など）で区分する方法も検討
●現在の生息・生育状況 ※分布図を付記	・調査結果から分かった軽井沢町内での生息状況 ・分布図の表示、表現については継続検討
●確認記録 記録データ／根拠	・現地調査、文献・標本など 確認記録のある文献などの記載と合わせて要検討
●減少要因 保全上の留意点	・一般的な要因だけでなく、軽井沢町独自の要因も反映 ・外来種との関係など

【分布図の表示案】

- 種の希少性の評価、町での保全対策の資料での詳細確認用の図面 ⇒ 1km メッシュ図
- レッドデータブックへの掲載、広く普及啓発用の図面 ⇒ 地区区分、流域区分、環境区分



3 軽井沢町版レッドデータブック（概要版） 構成案

- 軽井沢町民・子供たちをはじめ、別荘利用者・観光客・事業者・行政関係者など、町内外に広く「軽井沢町の自然・動植物の魅力や価値と危機」を普及啓発。
- 全般、イラストや写真多く用いてわかりやすく・興味を持ってもらえる内容にする。
- 環境教育の資材となることも想定して関連する専門用語やトピックなどをコラム的に整理し、興味をもって手に取ってもらえるようなものを目指す。

章	内容ポイント
軽井沢の自然の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・軽井沢町の地形や地質の成り立ち ・軽井沢町の気候の特性 ・特徴的な自然環境(森林・草原・湧水地など) ・自然環境、土地利用の変遷
なぜレッドデータブックをつくるのか	<ul style="list-style-type: none"> ・RDB の目的や位置づけなどを平易に説明 ・絶滅危惧種とは？ ・生物多様性の重要性
軽井沢の絶滅危惧種たち	<ul style="list-style-type: none"> ・町の代表的なレッドリスト種の概要 ・代表種を写真＋短文で紹介
町内の重要な自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・軽井沢町における重要な環境・場所(草原や河畔林など)の紹介 代表的な環境や場所を選び、位置図＋景観写真などで解説
希少な動植物や自然環境を守るためにできること	<ul style="list-style-type: none"> ・町の施策紹介(環境保全条例、管理計画等)、 ・住民・企業・学校の活動例、観光と共生のルールなど ・自然共生サイトの仕組み紹介？
軽井沢の自然に触れてみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・市民科学・連絡制度・自然観察会・学校教育など ・町内の自然関連団体紹介 ・町民を主体とした参加機会などを紹介
巻末資料	<ul style="list-style-type: none"> ・RDB 本体や県版・環境省 RDB へのリンク、QR コードなど

【体 裁 案】

- A4 判 20 ページ程度
- フルカラー、写真・イラスト主体
- 電子版 (PDF・Web 公開) ではリンクで本体も参照できるよう編集
- テイストなどは環境基本計画の概要版 (子供向け) を参考に